

この人

若宮正子さん現在85歳。今から5年前、80歳の時に時の人となった。高齢者向けのゲームアプリを開発し、世界的に有名なコンピュータ・ソフトウェア会社アップル社のティムクック CEO から開発者会議に特別招待されたのだ。そこで、クック氏と対談し、ニュースは世界へと発信された。

若宮さんがパソコンを始めたのは、58歳の時。長年勤めた銀行を定年退職した後に、いつまでも世間と繋がっていたと考えて、パソコンを独学で習得する。「定年後は、母の介護が待っていましたから。家にいながら世間と繋がれるパソコンで私は翼を得ました。メロウ倶楽部というシニア世代の交流サイトとの出会いも今の私の基盤になっているかもしれませんね」

その後、パソコンで柄をデザインするエクセルアートに魅せられて、自分で団扇や巾着袋などの生活用品を作ったりワークショップを開いたりしていたら話題になり、日本全国の講演会やシンポジウム等によばれるようになっていく。そんな時に、高齢者からスマートフォンについての不満を聞く。「若い人が楽しめるゲームアプリはたくさんあるのに、高齢者が親しみやすいモノは見当たらない。知り合いの若い人に、『高齢者向けのゲームを作ってよ』ってお願いしたら、ご自分で作ればいいじゃないですかと言われてね」。それで、高齢者向けのゲームアプリ「hinadan」を作った。これが話題になった。「80歳のおばあさんが作ったということと、それまでのゲームの概念を壊したことが注目されたのだと思います。それまでのゲームは、速さや量や正確さを競うものでしたが、hinadanは、雛人形の並べ方をゆっくりと楽しむソフトですから高齢者も知識と経験で楽しめる」



藤沢市老人クラブ連合会
デジタルクリエイター

若宮正子さん(85歳)

—— キーワード ——

- #エクセルアート
- #高齢者向けゲームアプリ「hinadan」
- #幼稚園時代の教育
- #デジタル庁・IT化
- #ヤングシニアのお助けマン
- #高齢者向けデジタル機器
- #お互いに勉強し合う
- #やりたいことに熱中する

世界中でニュースに取り上げられたことで、若宮さんの生活は今まで以上に忙しくなる。世界各国の政府や大学に呼ばれて飛び回る。

「もともと好奇心が旺盛で、新しい物好きだったし、人見知りしないタイプだから、どこへ行っても楽しめました」と笑う。



エクセルアートでデザインしたうちわ
シャツも自作のデザイン

そんな若宮さんを作っているのは幼稚園時代の教育かもしれない。通っていたのは、のんびりしたキリスト教系の幼稚園。戦前だったので厳しいカタカナ語規制もなく、ドイツ語の教育を受けた。

「今でも覚えているのは、瞑想の時間があつたんです。目を閉じて、じいっと耳をすまして鳥のさえずりや虫の声、木の音や風を感じて。それを、先生にひとりひとり言葉にして話すんです。

その時に感性や集中力を育ててもらったんだと思います。

それと、音感教育もやっていましたね。それのおかげで、戦時中に爆撃機の音を聞き分けたり、どの方向から敵機が来ているか分かりました」

ただ、戦時中は生きていくのに必死だったと話す。小学3年生以降はまともに勉強もできなかった。

戦後になり高校を卒業後、銀行に就職。「当時の女性がほとんどそうだったと思うけれど、私は大学に進学せずに就職しました。今の活動を通じて、様々な場所に呼んでもらって色々な方と交流して自分の学力不足を痛感しました。だから、もっと勉強しなくちゃと。今回のコロナ禍で、人が集まる場所に行く機会が減って、ズームというパソコン上での会議や講演になったでしょ？移動時間が無くなって、自由時間がたくさんできたから本を読んだり勉強することができたのよ。教材には事欠かかないです。テレビのNHKアーカイブや高校講座はいいですよ。パソコンのユーチューブも便利ですね」

今、コロナの影響で世界中の生活が変革の時を迎えている。日本でもデジタル庁が創設されるなど政府もIT化を進めている。このような社会の動きに高齢者が取り残されないようにするためには、どうすればいいのだろうか？

「デジタル庁のワーキンググループにも呼ばれていて政府に提案しているのは、日本の高齢者にITを浸透させるには、誰かが少し手を貸してあげられる環境作りが必要だということ。そんなお助けマンがいてくれると安心できる。このお助けマンは、ヤングシニアがいいと思う。

定年後すぐの方にやってもらう。全くのボランティアではだめ。交通費や弁当代くらいは出す。さらに、デジタル機器も高齢者向けの物を作るべき。熱中症で亡くなる高齢者の中には、リモコンが見当たらず、エアコンがあるのに付けられずに亡くなる方やリモコンの電池交換ができなくて使えなかった方もおられる。



今、声で反応してくれる家電が出ているが、エアコン本体に声をかけて稼働してくれる仕組みになれば、リモコン問題が解決できる。小回りの利く家電というのかな、ちょっとした不便に対する気づきですよね」

これからの高齢者がもっとITを身近に取り入れられるように具体的にすることは？

「まず、身近でパソコンをやっている人を見つける。グループがあれば入れてもらう。お友達と一緒にやると楽しく効果的にできると思います。シニアネットなどもありますし、行政の窓口で聞いてみるのも手ですね。もっと言えば、パソコンに限らずですが、お互いに勉強しあうことが大切だと思います。その仲間は、同質の人ではなく年齢もバラバラで性別も固まらず、国籍が違ってもいい」

生き生きと的確に話す若宮さんだが、健康の秘訣はと聞くと「やりたいことに熱中することかな。人生の目的って大切なのもかもしれない。希望をもって生きるということね。私には90代の兄がいるんだけど、友達に会いたいからって、パソコン上での会合、ズームっていうのを熱心にやってるからね。嫌ならやめればいいだけだし、気軽にやってみては。何を始めるのも遅すぎることはないですよ、私を見てください」

東京オリンピックの聖火ランナーにも任命されている若宮さん。取材後も、今日はあと2件仕事が入っているのよと足早に去って行った。

(ライター 小松 薫)